

---

# フィオナの転生物語

ことみ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

フィオナの転生物語

### 【Nコード】

N1608Z

### 【作者名】

ことみ

### 【あらすじ】

ルーディアス王国に住む大貴族の娘・フィオレンティーナは転生者だ。12歳のおり、母親である公爵夫人につれられいったパーティで彼女は運命的な出会いを果たすのだが　　？魔法あり、ラヴありの物語。

## プロローグ

私の名前は、フィオレンティーナ・セリス・レンディア。転生者だ。ル・ディニア王国の片隅に居をかまえている。家は貴族だ。しかも、公爵家。古くからある、由緒ある家なのだ。王家とも交流が深い。私の家は聖魔術士を代々、輩出している家でもある。兄様ふたりも若くして出世コースにのる前途有望な若者だ。わたしは、今の家族がとっても大好きだ。

「フィオレンティーナ様。今日は、魔法の勉強に時間です。カレル先生がお越しですよ」

「ありがとう、ルチル。用意はできてます。先生は、どちらに？」

「もう間もなく、お越しですよ。それにしても、お嬢様の勉強は日に日に進んでいきますね。12歳でここまで教育が進んでいる、貴族の子女はお嬢様だけだと思いますよ」

鼻が高いですわ！と興奮するルチル。目を輝かせて嬉しそうに語られると、なんだか悪い気がしてしまう。本当は精神年齢20代後半だとは言にくい。ありがとう、とわたしは彼女に無邪気な笑顔をうかべて笑いかけた。そうしているうちに、カレル先生が部屋にこられた。

「おはようございます、フィオレンティーナお嬢様。先日の復習はすみしかったですか？」

「はい、先生。高等魔法技術理論でしたね。やっておきました。今日は何をされますか？」

「そうですね、では複合魔術の実践にいたしましょうか。まずは、これをみてください」

そういうと、先生は 凍りつく風 の呪文を唱えた。すると、風とともに氷の矢が生まれ、部屋にあった花瓶が風をうけて、凍りついてしまった。わたしも、と思いおなじスペルで呪文を唱える。

風よ、すべてのものを我が意のもと、凍てつかせよ

狙いを受けたベッドが瞬時にして凍りついた。すぐに解かなくてはいけないため、解除魔法を唱える。

### 解除

先生も同時に唱えたので、部屋の被害はゼロだ。外でやりたいのだけれど、今は冬なので中でやるものとなっている。暖くなるまでの我慢だ。すぐに考えをやめ、先生にむきあう。このあとも、いくつかの狙いをさだめて凍りつかせ、解除するといった授業だった。高等魔法だと解除が完璧に行えるものになっている。初歩だと四次元素を覚えることから始まるから、わたしの腕は王宮でも十分通じるものだったりする。

「さすが、お嬢様ですね。これは将来が楽しみです。お兄様方に劣らぬ腕前ですよ」

「ありがとうございます、先生。これから毎日、頑張りますね」

「あらあら、フィオナちゃんは頑張りやさんね。ママたちをすぐに追い越してしまいそうだね」

「お母様！いらしてたのなら、いつてくださったらよかったのに」

そういつて近寄ると、頭をなでられた。なんだか、くすぐったい感じ。ふにや、と顔をやわらげるとカレル先生は頭をさげて、退出していった。ルチルにお茶の用意をもらって、お母様と二人きりになる。

大事な話でもあるんだろうか？顔に出たのだろうか、お母様はくすつ、と笑うと私に視線をあわせた。

「あのね、フィオナちゃん。今度、お城でパーティが開かれるの。お友達を作るのに、いいかと思つて。ママといっしょにいきましょう」

「はい、お母様。一緒にいきます。お兄様方にはお会いできますか？もう二か月もお歸りになってません。淋しいです」

「そうね、淋しいわね。その日はいいことがあると思うから、楽しみにしておいてね」

「？わかりました。楽しみにしておきます」

そして、その数日後。お城でパーティが開かれた。はじめてくるお城は広く、お母様とはぐれてしまった。どうしようか、とまわりをみわたしていたら、声をかけられた。

「はじめまして、レディ。お名前をうかがつても？」

それが、すべての物語の幕開けの合図だった。

## プロローグ（後書き）

魔法ものをはじめました。応援よろしくお願いします

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1608z/>

---

フィオナの転生物語

2011年12月5日20時53分発行